

科目	理学療法評価診断学	担当	太田 進	履修学年	2年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	必修	単位数	2単位

【授業目標・到達目標】

理学療法評価診断学 I では、最初に理学療法のプロセスや評価の目的、種類等について説明する。次に疼痛、関節可動域の異常、筋力低下、感覚障害に対する評価、また、四肢の長さや周径、姿勢、変形やアライメントの異常の形態測定評価を中心に講義と実習を行う。
この授業を通じて、理学療法士に必要な検査測定の基本的な技術の修得を目標とする。

【履修注意】

講義と実習をあわせて行っていくため、実技の可能な服装で参加すること。

【評価方法】

出席状況、授業態度、定期試験などから総合的に評価する。(欠席が1/3を超える学生は受験不可)

【試験について】

試験については、筆記試験と実技試験の結果から総合的に評価する。
再試験対象者の条件：本試験で60点未満を再試験の対象とする。

【予習・復習】

学修時間は1単位45分が文部科学省指針である。1単位科目は90分の講義に対して45分、2単位科目は90分の講義に対して90分の自宅学習(予習、復習)が必要である。
理学療法評価診断学 I では、運動学・解剖学の知識が必要なため十分な(45分程度を目安とする)予習・復習をして講義に参加すること。

【教科書】

書籍名：理学療法評価学 著者：松澤 正 出版社：金原出版株式会社
書籍名：新・徒手筋力検査法 著者：津山直一(訳) 出版社：協同医書出版社

【参考書】

書籍名：ベッドサイドの神経の診かた 著者：田崎義昭 出版社：南山堂

【その他の注意事項】

【授業計画・内容】

回数	項目	内容
1	理学療法評価学総論	理学療法のプロセスと評価総論
2	疼痛、感覚の評価	疼痛の原因と種類、評価法、表在感覚、深部感覚
3	関節運動の障害	低運動性と過運動性の原因
4	関節可動域検査	下肢(股関節・膝関節・足関節)
5	関節可動域検査	上肢(肩関節・肘関節・手関節)
6	関節可動域検査	脊柱(頸椎・胸椎・腰椎・骨盤帯)
7	関節可動域検査	手足の指と肩甲帯、ゴニオメーター以外の方法
8	四肢長・周径と筋短縮	計測の意義と実技
9	筋力検査	筋力検査総論
10	筋力検査	上肢(肩関節・肘関節・手関節)
11	筋力検査	下肢(股関節・膝関節・足関節)
12	筋力検査	体幹
13	筋力検査	肩甲帯と手指
14	姿勢とアライメントの評価	姿勢とアライメント計測
15	実技のまとめ	実技のまとめ
16	期末試験	15コマの復習・確認・総まとめ